

介護や医療現場で働く卒業生のみなさんへ

お久しぶりです。お元気ですか？

今、世の中は、新型コロナウイルス感染症の猛威に晒され、みなさんの生活にも様々な変化やご苦労があるかと思います。

卒業生のみなさんは、様々な分野でご活躍のことと思います。特に介護や医療従事者として最前線で利用者や患者のために毎日奮闘している卒業生のことを思うと、どうか健康であってほしいと日々祈るばかりです。そして将来、介護や医療従事者を夢見ている学生のみなさんも、新型コロナウイルスによる介護や医療現場の過酷な現状に心を痛めたり、新たな覚悟の中で日々勉強に励んでいると思います。

私たちは、みなさんが入学したときから「人の命を預かる仕事に就く、その重みと責任を常に感じ、日々の学習に取り組んで欲しい。」と伝えてきました。

この時ほど、この言葉の重みを感じたことはないのではないのでしょうか？

介護や医療の現場では、働く人たちも次々とコロナに感染し、「院内感染」や「介護や医療の崩壊」という言葉も聞かれるようになりました。

「人の命を預かる仕事に就く、その重みと責任を常に感じ、日々の学習に取り組んで欲しい。」
私たちもこの言葉の重みを改めて感じています。教えたことは間違っていない、だけど自分の命を犠牲にしてはいけない。あなたのからだは、あなた一人だけのものではない。大切な家族や友人のために、自分のからだを大切にしたい……。

しかし、介護や医療の最前線で働く卒業生たちは、病で苦しんでいる利用者や患者と接する中で、「自分どころではない、一人でも多くの命を救いたい」という思いでこの未知の病と闘っているのではないか……。

そのような葛藤の中、私たちはみなさんを毎日思い続けております。チームの中で介護や医療の仕事を全うする。しかし、少しでも自分の体調に異変を感じたら、絶対に無理はしないで欲しい。

私たちも、今回の長い休校で、日々生徒たちと学校で過ごすことの尊さを改めて感じています。この4月、川崎高校福祉科の伝統とみなさんの活躍を慕って新たに39名が入学しました。新入生、そして2・3年生と再び学校で新たな時を刻むことを心待ちにしながら、川崎高校福祉科を巣立ち、介護や医療の現場で活躍している卒業生のみなさんに心から拍手とエールを送ります。

みなさんは、私たちの誇りです。
また笑顔で会いましょう。
私たちは、いつの日も「市川」で待っています！！

福祉科 佐藤 智広

